

テーマ別会議

後半は、8つテーマから1つ選んで話し合っていました。どのテーマのテーブルも活発な意見やアイデアが

千里の人ってこんな人！

- ・海外に住んだことがある人が多い
- ・言葉遣いがきれい
- ・ドーナツ化現象：昼は働きに出ている
- ・子どもが多い
- ・両親がサラリーマンの人が多い
- ・転勤族が多い
- ・背景が同じような人が多い
- ・お上品
- ・芸能人が多い
- ・教育意識が高いため、中学受験も多い

千里の魅力的な場所はここだ！

- ・自然
- ・交通の便がいい
- ・転勤族が多いため街を知りたい人が多い
- ・千里緑地にカブトムシ
- ・大きいきれいなお家がまるで住宅展示場
- ・北急のプラットフォームが「レトロ建築」として紹介されていた
- ・南町の登り窯、いちょう並木
- ・南町完成時、リングの木 300 本植樹した
- ・北町のくるまどめ
- ・各町ごとに滑り台がある
- ・子どもたちにも知ってほしい歴史がある
- ・東町公園：長谷池
- ・コラボの屋上
- ・千里の案内所
- ・ゆっくりできる場(例：つながりのひろば)

活動を続けるために あったらいいものは？

- 1. 活動できる場所**
 - ・企業の所有地も使えたらいい
 - ・誰が「使える場所」の情報を持っているのかわかるように
- 2. 人材をどう集めるのか**
 - ・参加してほしい年代のグループに顔を出す
 - ・活動する曜日や時間帯を検討する
- 3. 継続して安定した活動費を得る方法**
 - ・助成金
 - ・とよなか夢基金 / 近畿ろうきん NPO アワード / 一阪急阪神 未来のゆめ・まち基金など

他の企業や団体と 協働することでできることって？

- 1. コワーキングスペースのような場づくり**
 - ・気軽に来れるコミュニティづくり
- 2. 竹を残す方法**
 - ・竹の管理
 - ・住民も企業も情報交換できる場
- 3. 地域活動の広がり**
 - ・アイデアが集まる
 - ・ゴールを一緒に考えていくことが協働
 - ・WS やイベントを企業・団体協働で実施

エリアマネジメントの取組みで 大切にしたいことって？

- 1. 各主体が参画する意義を感じられる**
 - ・多くの人たちとつながりたい
 - ・連携することで Win-Win の関係をつくっていく
 - ・役割や責任を持つ
 - ・一定の収益をあげていく
- 2. 地域の課題にアプローチすること**
 - ・お困りごとの解決につなげる
 - ・道路で分断されている地区同士（東町北町）の連携につなげる
 - ・安心して住むことができるまちづくり（防災対策、情報共有・発信など）
- 3. 千里らしさを生かしていくこと**
 - ・千里の人材を活用
 - ・千里特有のものを発見する
 - ・千里の企業の取組みや強みについて知る
- 4. 千里の立地特性を捉える**
 - ・北大阪や豊中市の広域的な視点からの千里中央駅エリアの位置づけを考える
 - ・田園都市など当時からまちづくりの計画理念共有する

5. 拠点や居場所となる場が必要

- ・日常的に意見を言い合える場
- ・人のつながりが生まれる場

このワークショップの 趣旨ってなに？

- 1. ワークショップの趣旨**
 - ・ワークショップのコンセプトが分かりにくいので目標を明確にしてほしい
 - ・参加者に何を求めているのか、明確に伝えてほしい
 - ・活動のテーマを具体的に示すことで、参加者がより活動しやすくなる
- 2. ワークショップの位置づけ**
 - ・もっと大枠の整備について意見を言う場だと思って参加した
- 3. 若い人の参加促進に関して**
 - ・寄付を受ける仕組みをつくることで、若い人が参加しやすくなる
- 4. 千里の人たちについて**
 - ・千里の人々は「ストレートに物を言わない」というイメージがある
- 5. 大切にしたいこと**
 - ・団地のある原風景を大切に、今後の活動を展開したい
 - ・千里中央駅周辺には近代建築遺産が多く、これらを今後活かしていくことが必要。

テーマ別（竹、食、子育て）に 取組みを考える

- 1. テーマ：竹**
 - ・竹林でお茶会、日常的なライトアップ（防犯につなげたい）
 - ・住民と企業が連携した持続的な竹林整備
 - ・竹製品づくり（屋台、遊具、青竹踏み、メンマ）→千里のブランドへ
- 2. テーマ：子育て**
 - ・まちの高齢者が親を助ける仕組みづくり
 - ・こども食堂の増設
 - ・子育ての情報発信、場所づくり
 - ・不登校児童の居場所や、親の相談場所
 - ・学校用品を夜でも購入できる場所
 - ・誰かと一緒にボードゲームができる場所
 - ・食育や自然を学ばせたい
 - ・郷土愛を育むための教材づくり
- 3. テーマ：食**
 - ・地産地消の可能性
 - ・海外の食を知るクッキング教室

日常的に話すために、 どんな場があったらいい？

- 1. ふらっといけて誰かに出会える場**
 - ・カフェのような場
 - ・お金を払わなくとも、自由に好きなことができる場
 - ・屋内で集える場
 - ・生活範囲内の身近な場所と、駅前などの非日常を感じる場所にほしい
 - ・公共空間、公園の活用など
 - ・グリスロの運行は会話の機会を増やすことにつながる
- 2. 日常的に話す場でできること**
 - ・東町のまちかど広場のような場
 - ・地域の支え合いや見守りができる
 - ・趣味、子育て、同世代などのコミュニティ
 - ・近隣センターでのマルシェなど、ゆるくつながる機会
 - ・顔の見えるつながりを広げていく機会
- 3. 場所について**
 - ・コラボの1階の元カフェの場所
 - ・コラボの広場に面した場所
- 4. コンテンツ**
 - ・様々なコンテンツがミックスされている
 - ・カフェや本があり、遊べる場
 - ・健康に関わること、マルシェや野菜販売、産地のおすすめ品の販売
 - ・共同菜園のある場所、買い物支援も兼ねた朝市、手作りの販売など
- 5. 継続した運営**
 - ・単発から始めて、徐々に定期開催に
 - ・運営側として関わる方法を知りたい
- 6. 千里中央エリアのイベント開催情報**
 - ・北町つつじ公園には朝市がある
 - ・南町にはキッチンカーが来る
 - ・月2回豊中産の野菜をコラボで販売している
 - ・千里中央周辺の地域は広いので、開催情報など知らないものもある



これから千里 活動づくりワークショップ 説明会&交流会

NewsLetter

開会とごあいさつ（豊中市 都市整備課 岸本主幹）



これまで地域の方や活動団体、企業の方々から千里ニュータウンの魅力や課題についてのアイデアを出していただき、「千里アクティビティガイドこれ、せん？」を3月

に策定することができました。今年度は「これ、せん？」を参考にしながら、アイデアを活動にしていきます。今後ハード整備が進む中で、地域活動などのソフトの取組みも同時に進めることでこの地区の魅力向上につなげていきたいと考えています。地域みなさんにも積極的に関わっていただきながら協働して進めていきたいと思ひます。

8月29日に発表された千里中央地区の活性化基本計画の改定については、別途、説明会を開催いたしますので、そちらにご参加いただきたいと思います。

グループ分けと自己紹介

今回の場は交流会の要素もあるため、グループ分けをしながらどんな方が参加しているのかを知っていただけるようにしました。初めに、参加者それぞれの「千里歴」の年数を数え、0年から順に集まっていたらグループをつくり、自己紹介をしていきました。千里歴が若い方にとっては、15年や30年の方々のお話が興味深く、

これから千里 活動づくりワークショップ説明会&交流会

日時 2024年9月29日(日) 14:00~16:30
会場 千里文化センター「コラボ」第1講座室
参加人数 47名

プログラム

- ・開会とごあいさつ(事務局から)
- ・グループ分けと自己紹介
- ・プロジェクト説明
- ・テーマ別会議
- ・発表
- ・閉会



プロジェクト説明

「これから千里」のワークショップが始まるのにあたり、千里中央駅周辺整備におけるエリアマネジメントの考え方について、studio-Lの醍醐さんよりご説明いただきました。

エリアマネジメントとは？

国交省によると、エリアマネジメントは「地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取り組み」とであると定義されています。行政が主体的に進めているイメージがありますが、地域のみなさんはもちろん、民間企業も一緒に進めるという点が、一つの特徴です。

そのエリアマネジメントに取り組んでいくために、どのような活動から始めるといいのでしょうか。どんな活動をするにも、法的な問題や、お金、人材や技術などさまざまなハードルがあるかもしれません。それらについて、みんなで学び合いながら一つずつハードルをクリアしていくことが必要だと思います。ときには新しいチームをつくりながら動いてみると、一つずつハードルを超えていけるのではないかと思います。それを継続的に持続的に進めていくためにはどのような仕組みが必要なのかという点も課題として見えてくると思います。これから始まるワークショップでは、そのような課題も一緒に考えながらつくっていききたいと思います。

エリアマネジメントを進めるためには？

そのような取り組みを進めていくうえで大事になるのが、目標です。ビジョンとかコンセプトと言われるようなものを共有しながら、それを実現するために一歩ずつ進めていきたいと思います。目標に沿って学び、企画を考え、試すことを何度も繰り返す中で、体制や人材、空間や設備などの仕組みが見えてきます。みなさんと一緒にそれらを発見しながら段階的に仕組みをつくっていったらと考えています。この目標の一つとして位置づけられるのが、「千里アクティビティガイドこれ、せん？」です。これまでは、市民や企業のみなさんとワークショップをしたり、自治会や市民団体のみなさんにお話を聞きました。その中で、この千里のエリアマネジメントにとって大事なコンセプトが見えてきたように思います。それ

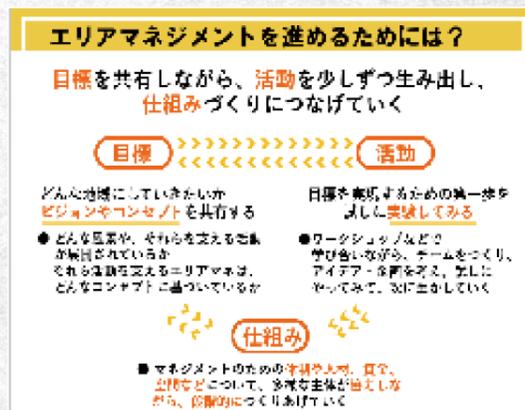
千里中央駅周辺のエリアマネジメントのコンセプト

- ① 多様な主体の本質的な参画・協働
- ② 千里ニュータウンの歴史や特性の継承・発展
- ③ 新たなスタイル(ライフ・ワーク・ラーニング)への対応
- ④ 多様なパブリックスペースの創出
- ⑤ エリアに関わるすべての人たちの幸せを実現する

今後のロードマップイメージ

今年度はワークショップをしながら、3月に社会実験的なイベントを開催したいと思っています。そして、この流れを次年度以降も続け

ながら、どのようなマネジメント体制が必要なのか、どのような協力体制が必要なのか、どのようなプラットフォーム



これまでの流れと今後について

これまでのワークショップやヒアリングの内容をもとにまとめた冊子を改めてご紹介しながら、これまでに進めてき

「千里アクティビティガイドこれ、せん？」について

一昨年からワークショップを開催させていただき、みなさんのご意見をまとめたものを、「アクティビティガイドこれせん？」という冊子にまとめました。この冊子で挙げられている取組みを参考に、少しずつ実行していきたいと思っています。

冊子では、駅前、公園、住宅の3つのエリアに分けました。それぞれの魅力と課題、そして「あったらいいな」と思う取組みをまとめています。今後はこの冊子の活動だけを進めるのではなく、さらに新たな提案もいただきたいと思っています。ワークショップでは、さまざまなテーマのアイデアをいただきましたが、その中で多くのご意見を寄せていただいたのが、「交流をしていきたい」ということでした。他には、「子どもを対象にした取組み」や、「竹のように自然を保全したり活用する取組み」、そして、「食」や「防災」などがありました。今後は、交流を中心に据えて、



食や子ども、自然から活動を最初のテーマに設定したいと思います。他のテーマに関心がある方は、例えば「子ども」を掛け合わせたら、

「千里ののの交流会」について

これを踏まえて9月14日に、千里東町公園で「千里ののの交流会」という取組みをしてみました。竹の会さんに活動の紹介と竹切り体験をご準備いただき、各企業さんにもキッチンカーや飲食物の販売、電気の供給や机椅子などの備品の貸与のご協力をいただきました。今回のように、テーマや活動場所を選び、協力者を募り、役割を決め、実施して振り返る、このサイクルを、来月からのワークショップで実施していく予定です。

ワークショップは全6回の連続講座で、地域の状況を知り、活動を組み立てて、3月末に実行する流れになります。このワークショップの目標は、ご参加いただいた方で自身が活動を企画し、実行することです。講座では企画づくりや発想のノウハウをお伝えし、交流の機会も持っていきたいと考えています。

質疑応答

ここまでの説明を受けて、参加者のみなさんからのご質問をいただきました。イギリスの美術家・美術批評家・社会改良家であるジョン・ラスキンの考えを千里のエリアマネジメントにどう活かそうと考えているのか、他国のニュータウンでの活動の事例を教えてくださいなど、専門的な質問があった中、今回のワークショップのゴールを教えてくださいという質問が挙げられました。それに対し、現時点で明確なゴールの形は設定せず、みんなで話し合いながらどこを目指すのか、そのために何をやっていくのかを考えながらゴールをつくっ

